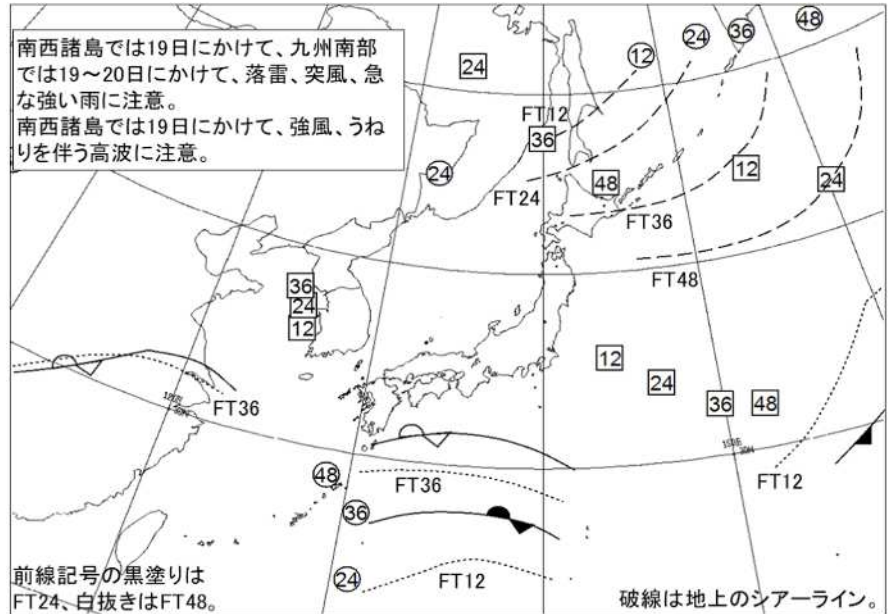


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5820~5880mの上空の高気圧に対応して、黄海と東日本に高気圧があり、前者はほとんど停滞し、後者は東南東に移動。千島近海の高気圧は東南東に移動。北~西日本はこれらの高気圧に覆われて、広く晴れている。高気圧の縁辺を、吹送距離、吹送時間の長い東寄りの強い風が吹いていて、南西諸島では波の高い所がある。
- ② 日本のはるか東の前線を伴う低気圧が東北東進。前線は、日本のはるか東から小笠原諸島近海を通過して日本の南へのびている。
- ③ サハリン付近を低気圧が東南東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の黄海の高気圧は19日朝にかけて北上した後、不明瞭化。1項①の千島近海の高気圧は、18日夜にかけて日本のはるか東へ移動し、その後19日夜にかけて沿海州から北海道付近に別の高気圧が移動してくる。1項①の東日本の高気圧は、19日夜にかけて日本の東へ移動する。これらの高気圧の縁辺を、吹送距離、吹送時間の長い東寄りの強い風が吹くため、うねりを伴い波が高くなる所がある。南西諸島では18日は、強風やうねりを伴う高波に注意。全国的に19日にかけて晴れて昇温するため、北~西日本では真夏日となる所がある。熱中症などの健康管理に留意。
- ② 18日夜までに、日本の南で低気圧が発生して、20日にかけて東シナ海に北上する。また、1項②の低気圧からのびる前線が日本の東で不明瞭化して、日本の南の前線は20日にかけてゆっくり北上する。低気圧や前線に向かう下層暖湿気や上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。南西諸島では19日にかけて、九州南部では19~20日にかけて、落雷、突風、急な強い雨に注意。低気圧の周辺では風が強まり、波が高くなる所がある。南西諸島では19日は、うねりを伴う高波に注意。
- ③ 1項③の低気圧は、19日夜にかけてオホーツク海を通りカムチャツカの東に進む。この低気圧付近からのびるシアーラインが、18~19日に北海道付近を通過し、一時的な降水をもたらす。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項②の日本の南の前線の勢力や位置の予想には不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

② 波浪(明日まで)：奄美・沖縄3m。

③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。